

## 「第8回北東アジア OSS 推進フォーラム」を開催

IPA(独立行政法人情報処理推進機構、理事長:西垣 浩司)および日本 OSS 推進フォーラム(代表幹事:日本電気株式会社 代表取締役 執行役員社長 矢野 薫)は、「第8回北東アジア OSS 推進フォーラム」を、2009年10月19日(月)~20日(火)にANA インターコンチネンタルホテル東京(東京都港区)において開催しました。日本・中国・韓国の産業界、研究機関、大学、政府関係者等より200名を超える参加がありました。次回フォーラムは、2010年に韓国で開催することが合意されました。

北東アジア OSS 推進フォーラムは、2004年以来、日本 OSS 推進フォーラム、中国 OSS 推進連盟及び韓国 OSS 推進フォーラムが協調し、各国におけるOSSの普及・発展に向けた活動を行っています。今回は、昨年中国無錫市で開催された会合に続く第8回会合であり、各国の産・官関係者からの講演、ワーキンググループ(WG)<sup>1</sup>の活動報告、各国で選ばれた OSS 貢献者の共同表彰等が行われました。



今回の会合では、日中韓のフォーラム参加者が各 WG から報告された成果と今後の計画に関する議論結果に基づき、次の点を確認しました。

- ・ これまでの、日中韓の協調による OSS の普及促進に向けた取り組みは、多くの実りある成果を達成してきていること。
- ・ 情報社会における OSS の役割はますます拡大しており、北東アジア OSS 推進フォーラムの従来の活動を強化すると共に、先進領域に対する取り組みを推進すべきであること。
- ・ 第9回北東アジア OSS 推進フォーラムは、2010年に韓国で開催すること。

3つのWGから報告された主な活動成果と今後の計画は、以下のとおりです:

### 1. WG1:技術開発・評価

<sup>1</sup> 北東アジア OSS 推進フォーラムには、①「WG1:技術開発・評価」②「WG2:人材育成」、③「WG3:標準化・認証研究」の3つのワーキンググループ(WG)が設置され、各WGにおいて専門的な議論が行われています。

- ・ Linux サーバ向けのリソース管理ツール群である OpenDRIM2008suite<sup>2</sup>を 2009 年 3 月にリリースし、その一部を Ubuntu<sup>3</sup>に提供した。Ubuntu の次期バージョンで正式にサポートされる予定である。
- ・ Linux カーネルのバージョン間での互換性をテストするツール Crackerjack の最新版 v3.0 を 2009 年 10 月にリリースした。同時に、テスト結果の情報を公開するサイトをオープンし<sup>4</sup>、Autotest プロジェクト<sup>5</sup>のサイトと相互リンクを実現した。また Linux のテストに関する中心的国際コミュニティである LTP (Linux Test Project)<sup>6</sup>にテスト関数のソースコードを提供した。
- ・ 日中韓のクラウド技術に関連した情報交換をするためクラウドタスクフォースを WG1 の下に新設した。
- ・ WG1 の活動は、世界のコミュニティから重要な貢献として認められつつあり、今後もこうした世界のコミュニティとの連携をより一層強化していくことを確認した。

## II. WG2: 人材育成

- ・ WG2 は、2009 年 2 月、北京で“2nd Human Resource Development (HRD) Symposium (第 2 回人材育成シンポジウム)”を開催した。7 月には“Northeast Asia (NEA) HRD Model Curriculum Draft1.0 (北東アジア人材育成モデルカリキュラム第 1 版)”を公開した。現在同カリキュラムの改善を継続しており、年内に第 2 版を公開する予定である。
- ・ 次回韓国で開催予定の第 9 回北東アジア OSS 推進フォーラムに併設し、“OSS トレーニングセッション”を開催することに合意した。
- ・ モデルカリキュラムの議論のなかで作られた“OSS スキルセット”をベースとし、日中韓が協調して OSS 人材の認定を行うことにつき、継続して議論することを確認した。

## III. WG3: 標準化・認証研究

- ・ WG3 は第 1 期プロジェクトの成果として、「多言語文字入力モジュール用インターフェース」の仕様書、WWW の非互換問題について状況と原因を調査した「ウェブデータ相互運用性問題に関する合同調査レポート」、同問題点の解決法に関する提案書を 2008 年に公開し、これらプロジェクトを終了した。
- ・ WG3 の次期プロジェクトを検討するための「次期プロジェクト検討タスクフォース」の設立に合意した。
- ・ 2009 年に、「次期プロジェクト検討タスクフォース」を 3 回開催した。数件の次期プロジェクト候補が議論されているが、最終決定までにはさらなる議論が必要である。

本会合に引き続き 10 月 21 日(水)に、IPA は日本 OSS 推進フォーラム及びリナックス・ファウンデーションと連携し、第 1 回 Japan Linux Symposium を共同開催します<sup>7</sup>。第 8 回北東アジア OSS 推進フォーラムへの中国、韓国からの参加者の多くが引き続きこの会議に参加し、国際的交流が深まることを期待しています。

### ■本件に関するお問い合わせ先

IPA オープンソフトウェア・センター 梅沢／大内

Tel: 03-5978-7507 Fax: 03-5978-7517 E-mail: ossc-info@ipa.go.jp

### ■報道関係からのお問い合わせ先

IPA 戦略企画部 広報グループ 横山／白石

Tel: 03-5978-7503 Fax: 03-5978-7510 E-mail: pr-inq@ipa.go.jp

<sup>2</sup> OpenDRIM (Distributed Information Resource Management) 2008 suite : Linux サーバ向けのリソース管理ツール群。ディスクや CPU の利用状況等を監視する。

<sup>3</sup> Linux ディストリビューションの1つで利用者が急速に増加している。

<sup>4</sup> 10 月 14 日より IPA のサイトにて公開中。( プレスリリース:<http://www.ipa.go.jp/about/press/20091014.html> )

<sup>5</sup> Linux カーネルを信頼性・性能の観点で自動テストを実行するプロジェクト。( <http://autotest.kernel.org/> )

<sup>6</sup> Linux カーネルの信頼性テストツールを開発しているプロジェクト。( <http://ltp.sourceforge.net/> )

<sup>7</sup> 同会議開催のプレスリリース:<http://www.ipa.go.jp/about/press/20090629.html>

## (参 考)活動の経緯

北東アジア OSS 推進フォーラムは、2004 年 4 月に北京で第 1 回フォーラムを開催し、今回は第 8 回目の開催に当たります。日本での開催は、2004 年 7 月札幌、2006 年 11 月福岡に続き、今回で 3 回目の開催になります。これまでの経緯は、以下のとおりです。

第 1 回	北京	2004 年 4 月	OSS の普及・発展に向けて協力してゆくことに合意
第 2 回	札幌	2004 年 7 月	共同の取り組みをテーマ毎に検討するためのワーキンググループ (技術開発・評価、人材育成、標準化・認証研究の 3 つの WG) の設置に合意
第 3 回	ソウル	2004 年 12 月	各 WG の具体的な活動内容に合意
第 4 回	天津	2006 年 4 月	各 WG の活動目標、サブワーキンググループ、タスクフォースの設置に合意。 <u>技術開発・評価 WG</u> ・共同検討を行うサーバ SWG とデスクトップ SWG の設立 <u>人材育成 WG</u> ・OSS 技術者のスキル認定、教育カリキュラムを検討するタスクフォースの設立 <u>標準化・認証研究 WG</u> ・入力メソッドエンジン SPI <sup>*1</sup> 標準仕様案のドラフト目標の設定、WEB の相互運用性 SWG の設立、組み込み関連課題の研究  *1: <u>S</u> ervice <u>P</u> rovider <u>I</u> nterface
第 5 回	福岡	2006 年 11 月	各 WG において具体的な共同プロジェクト、調査テーマに合意。 <u>技術開発・評価 WG</u> ①サーバーリソース管理ツール (OpenDRIM <sup>*2</sup> )、②Linux カーネル互換性テストツール (Crackerjack)、③DBMS の性能評価、④OSS デスクトップ Linux 導入促進ロードマップ、⑤専用端末向け Linux デスクトップ調査 <u>人材育成 WG</u> ①モデルカリキュラムの段階的な共同作成、②コースウェアの共同開発、③各国の試行プログラムの実施結果 <u>標準化・認証研究 WG</u> ①入力メソッドエンジン・インターフェース仕様書、②ウェブ (WWW) の相互運用性の研究  *2: <u>D</u> istributed <u>R</u> esources <u>I</u> nformation <u>M</u> anagement

第 6 回	ソウル	2007 年 9 月	<p>各 WG において具体的な共同プロジェクト、調査テーマの成果の確認と今後の計画に合意。</p> <p><u>技術開発・評価 WG</u></p> <p>①2007 年 9 月にサーバーリソース管理ツール「OpenDRIM<sup>*3</sup> 2007 suite」をリリースし、②Linux カーネル互換性テストツール (Crackerjack)をリリース。</p> <p><u>人材育成 WG</u></p> <p>2007 年 12 月までに「北東アジア OSS 人材育成に関する報告書(第 1 版)」を公表。</p> <p><u>標準化・認証研究 WG</u></p> <p>①「入力メソッドエンジン・インターフェース・サービス・プロバイダ仕様」のドラフト第 2 版を策定し、②ウェブの相互運用性の問題に関する報告書」を策定。</p> <p>*3: <u>Distributed Resources Information Management</u></p>
第 7 回	無錫	2008 年 10 月	<p>各 WG において具体的な共同プロジェクト、調査テーマの成果の確認と今後の計画に合意。</p> <p><u>技術開発・評価 WG</u></p> <p>① OpenDRIM プロジェクトは 2009 年 3 月までに「OpenDRIM 2008suite」をリリースする。②Crackerjack プロジェクトは 2008 年 4 月に 273 のシステムコール・テスト機能を持つ「Linux カーネル互換性テストツール第 2.0 版」をリリースした。</p> <p><u>人材育成 WG</u></p> <p>2007 年 12 月に「北東アジア OSS 人材育成に関する報告書(ドラフト第 1.0 版)」を策定し、2008 年 10 月に報告書第 1 版として公表した。</p> <p><u>標準化・認証研究 WG</u></p> <p>①「入力メソッドエンジン・サービス・プロバイダ・インターフェース仕様書」(以下、IME-SPI 仕様書)を完成し、これを承認した。②2007 年に「ウェブの相互運用性の問題に関する報告書」を公表した。③「ウェブの相互運用性問題の解決策に関する報告書」を完成した。</p>